

連載14 そして音楽の旅は続く

デビュー曲は、「歌は世につれ」に。

今の時代、デビューするだけなら簡単そうですね。スマホやパソコンなどのデジタル機器を使えば自宅でレコーディングできるので、それをYouTubeやネットで拡散すればもうデビューです。あるいは音源をパソコンでCD-Rに焼いて手売りしたりインディーズレーベルで発売してもデビューできますね。しかし私の若い頃はデジタルの環境が無かったので、デビューといえばメジャーレーベルでの発売しかありませんでした。デビューすることはたいへん難しいことだったので、今の時代は選択肢が増えてとにかく発信できるので羨ましいと思います。

さてさて私は19才の頃、N.S.P.さんのレコーディングにお邪魔していました。いつもエピキュラスの中を徘徊してたから遊びに行ったという方が正しいのかも。ちょうど天野滋さんの唄入れ(唄だけを録音すること)をやっていました。N.S.P.さんとは担当ディレクターが同じだったので、天野さんにも親切にさせていただきました。たまたまその日の天野さんの新曲と歌声を聴いて「ぐっ!」ときちゃって、私もこの曲を唄いたいと



▲1976年「歌は世につれ」
徳間音工HARVEST RECORDS

思いました。天野さんに感じたままを伝えたら「唄っていいよ」って、あの笑顔で言ってくれました。もちろんディレクターも大賛成です。簡単とか安易とかいうのではなく、自然なままに引き寄せられた感じで、嬉しくてじんときました。私のデビュー曲はこういう経緯で、作詞・作曲・天野滋、歌・西郡葉子「歌は世につれ」に決まりました。残念ながら天野さんは52才の若さで他界され、その才能が惜しまれます。おじいさんになった天野さんの詞の世界を見なかったなあ。N.S.P.のコンサートではいつも最後に唄っていた大切な曲を提供してくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。そして「ヒットしなくてもいいから名曲でデビューをしようね、一生つ

ジャズボーカリスト
星乃けい

officialwebsite
<https://www.hoshinokei.com>

いて回る曲だからね」と言ってくれたディレクターの故・萩原さんにも、もっと感謝を伝えておけばよかったと後悔ばかりです。さて私は名前を本名の西郡葉子に戻し、1976年に「歌は世につれ」徳間音工HARVEST RECORDSからデビューしました。併せて、弾き語りのスタイルで活動するため事務所はギターを用意してくれました。いや～素晴らしいギターで驚きました。押しつけがましさをない貝の模様、ちょっと太めのネックが気持ちいい、響きも天下一品!さすが!YAMAHAの高級なオーダー品!ちょっと重たいのが難ですが、このギターと一緒に日本中を廻って天野さんの「歌は世につれ」を唄いました。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーデヲファンから高く評価支持される